

令和4年度 西海市立西海小学校 自己評価書

本年度の重点努力事項

- 1 やさしく (1) 主体性を育てる活動の実践 (2) 人権・道徳・平和教育の実践
- 2 かしこく (1) 基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成 (2) 体験学習の推進
- 3 たくましく (1) 健全な心身の育成 (2) キャリア教育の推進
- 4 「は・あ・と・ふ・る 運動」の推進
- 5 特別支援教育の充実

評価項目 (評価指標)	そのための具体的な 方策・手立て	評価 ABC	その根拠 (□ アンケートは4点満点)	考察・分析及び改善策等
1 やさしく	<ul style="list-style-type: none"> ○主体性を育てる活動の充実 ○人権・道徳・平和教育の実践 	A	<ul style="list-style-type: none"> □自分から進んで行動 (児童 3.36) □教師の指導、対応 (児童 3.57) □道徳・人権教育 (教職員 3.18) (保護者 3.06) 	<p>全体的に、素直で優しい心が育っており、落ち着いて生活したり学習したりしている。</p> <p>本年度は、「課題に向かって、主体的に考え、協働して解決をめざす児童の育成」を学校教育目標として指導してきた。その結果、例えば、いくつかの委員会活動では、学校をより良くする主体的な活動に取り組む姿が見られるようになってきた。今後も、すべての児童に主体性を育む努力を継続していくとともに、相手を大事にした言葉遣いを指導していく。</p>
2 かしこく	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成 	B	<ul style="list-style-type: none"> □家庭学習の習慣 (教職員 2.82) (保護者 2.75) □分かる授業 (教職員 3.18) (保護者 3.04) (児童 3.42) □読書 (教職員 2.45) (保護者 2.43) (児童 3.09) <p>・学力調査結果</p>	<p>本年度は、「課題に向かって、主体的に考える」ことを重点に置いて取り組んだ。そのために、学んだことを振り返る場面を設け、児童が自分の成長に気づき、次の目標をもつ機会を増やしてきた。その結果、学力調査結果において、「主体的に学ぶ態度」は全体的に上昇した。毎日の授業や家庭学習等において、クロームブックを全校で活用しているが、良いところがある反面、使い方についての課題が見えてきた。読書の習慣も身に付けさせたい。学習道具としてのクロームブックの使い方や、学習内容の定着、読書については、今後も継続して指導していく。</p>
3 たくましく	<ul style="list-style-type: none"> ○健全な心身の育成 ○キャリア教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> □粘り強く学習 (児童 3.36) □ルールを守って行動 (児童 3.27) <p>・学校保健委員会の取組</p>	<p>本年度は、「児童自身が学びを振り返り自分の成長に気づいていく」自己実現の育成に重点を置いた。キャリアパスポートを活用し、毎月、目標に対する自己評価を全校同じ時間に行った。その結果、児童は、学習や生活を振り返り、今の自分や学級の課題を捉えるようになった。現在の課題は、粘り強く学習に取り組む姿勢や、生活改善に取り組む力である。今後も、継続して指導していく。</p>

4	「は・あ・と・ふ・る運動」の推進	<input type="checkbox"/> P T A ・ コミュニティスクールでの取組 <input type="checkbox"/> 地域での取組	A	<input type="checkbox"/> 早寝・早起き・朝ご飯 (教職員 3.09) (保護者 3.14) (児童 3.07) <input type="checkbox"/> 明るいあいさつ (教職員 2.73) (保護者 2.88) (児童 3.17) <input type="checkbox"/> 友達も自分の心も大切 (教職員 3.00) (保護者 3.14) (児童 3.60) <input type="checkbox"/> ふるさと愛する (教職員 3.00) (保護者 3.07) (児童 3.09) <input type="checkbox"/> ルールを守る (教職員 2.73) (保護者 3.02) (児童 3.27)	P T A の取組として、児童が家庭や学校で主体的に楽しみながら取り組むことを目指した「Try pay 活動」を実施した。11月に P T A 主催で開催した「わくわくカーニバル in さいかい元気村」では、集めた pay を使って様々な活動を行い、児童・保護者・地域で取り組む楽しいイベントとなった。 コミュニティ・スクールとしては、学校運営協議会の際に、「は・あ・と・ふ・る」が本校の教育活動の土台であることを周知し、理解と協力をいただいている。また、毎月、「C・S 便り」(校長作成)を校区の全世帯に配付し、取組等を紹介している。さらに、ゲストティーチャーとして、地域の方に、農業体験等に入っただき、協力していただいている。 このように、「は・あ・と・ふ・る 運動」を旗印にし、P T A や地域と連携することを通して、コミュニティ・スクールの推進につなげることができている。
5	特別支援教育の充実	<input type="checkbox"/> 校内支援体制の周知 <input type="checkbox"/> 校内支援委員会の充実 <input type="checkbox"/> 個にあった教育課程と支援体制づくり	A	<input type="checkbox"/> 特別支援教育の充実 (教職員 3.36) (保護者 3.07) <input type="checkbox"/> 教育相談 (教職員 3.36) (保護者 3.05)	児童や保護者に対し、特別支援教室の役割やインクルーシブ教育の理念について説明し、児童一人一人を大切にする学校の姿勢や、特別支援教育に対する理解を図ってきた。 個に応じた支援については、校内支援委員会だけでなく、常時、情報を共有し、全職員による支援態勢を取っている。困っている児童・保護者の支援と同様に、通常学級に在籍する児童への学力保障も行っている。
その他の特記事項 参考資料 <input type="checkbox"/> 学力調査結果 1 ～ 6 年 (1 2 月) <input type="checkbox"/> 児童用自己評価結果集計 <input type="checkbox"/> 保護者用学校評価アンケート <input type="checkbox"/> 教職員用自己評価結果集計 <input type="checkbox"/> 地区学校評価委員評価アンケート					